

要約

男女共同参画支援室アンケート調査からみた本学における仕事と家庭生活の不調和の実態

【目的】

仕事と家庭生活の不調和（WLC; work–life conflict）は、医療の質にも生活の質にも影響を及ぼす。本調査の目的は、本学に勤務する職員における WLC に加えて、職場で感じる男女性差について明らかにすることである。

【方法】

本学に勤務する全 3,347 名の職員を対象に、2017 年 8 月にアンケート調査を実施した。2,464 名（回答率 73.6%）から回答があり、そのうち欠損値のない 2,285 名（完全回答率 68.3%）のデータを分析した。

【結果】

WLC がある割合は全体で約 30%であり、特に 30～39 歳、大学教員、そして看護師において高かった。仕事と家庭生活の調和（WLB; work–life balance）実現のために必要なこととして多く挙げられたのは、「仕事量の削減・効率化、適切な人員配置」、「職場の雰囲気、上司の理解」、「勤務時間の短縮、多様な生き方の導入」であった。さらに、全体で約 25%が職場での男女差別を感じており、WLC と関連していた。男性の方が男女差別を感じている割合が高く、特に「仕事の内容」および「雑務の負担」に不平等を感じていた。一方女性は、「昇進」や「業績評価」に不平等を感じていた。

【提言】

本学において WLC は切実な課題である。特に WLC を感じやすい年代（30 代）と職種（教員と看護師）について、仕事量や勤務時間の工夫が必要である。また、職場での平等感の男女差を踏まえて、仕事の分担と評価を見直す体制が必要である。